

VISION 2020

絶対信仰で偉大なる日本、勝利する日本をつくろう

宋龍天総会長ご夫妻、全国巡回を通して天運とビジョンを届ける



ソウロンチョン
宋龍天全国祝福家庭総連合会総会長は今年7月9日、第2地区福島教区の郡山教会を起点として、精力的に全国の教会訪問を開始し、12月16日の岐阜教会訪問までの約5ヵ月間に、約150カ所の教会や聖地などを訪問し、信徒を慰労・激励されました。また主礼として10カ所で祝福式を挙行されています。1日で多い時に6、7カ所の教会訪問はまったく新しい発想での巡回スタイルで、歴代の総会長・会長において前例がありません。先々の教会で祈り、信徒にメッセージを語り、一人ひとりと握手をして、一人ひとりの貴重な証しに耳を傾けて記録し、もちろん記念写真も忘れません。一箇所が終われば、休む暇なく次の訪問先へ移動。1日の巡回を終えて深夜に宿に着くころには、宋総会長の足はまともに動かないほど疲れが蓄積していますが、スケジュールを変更されることはありませんでした。

宋総会長の胸中には、そのような巡回を通じて、スイスにおいて12の山々を登山・巡回された真のお母様の勝利圏、天運を日本と日本教会に連結しようという強い決意がありました。信徒に対して、神のごとく大切にしたいという親の心情を抱きつつ、自己変革をするリーダーシップの模範となって実践される宋総会長の並々ならぬ決断を、私たち一人ひとりが今こそ、継承しなければなりません。

真の父母様と共に訪問

宋総会長は訪問した先々で、集まった食口たちに対し、「今日は私だけが来たのではなく、真の父母様も一緒に来られたのです」と語り、一人ひとりと握手して一緒に写真を撮られました。

「真の父母様がここに来るように指示されたので来ました。真の父母様が皆様に会いたくて、会いたくて、愛したくて、抱きたくて来ました」(7月11日、北北海道教区札幌創成教会)

「私が小さな教会でも訪ねたいと思い、足を運んで来たのは、真の父母様がそうされたかったの





であって、今の握手も真の父母様と握手されたのですよ。この教会が大きな教会になって沢山の人が集まるようになったら、私もサモニムと共にまた来ます」(7月11日、南北海道教区江別教会)

宋総会長から「お父様と一緒に来られています」という言葉を聞いた食口からは、「胸が熱くなって涙がこみあげました。何も語らなくてもすべてご存知のような気がして、ご父母様の深い愛が宋総会長を通して感じられました」(岩手・花巻教会のSさん)といった感想が聞かれました。

ビジョンと情熱を持つ者は青年

宋総会長は、真の父母様が青年・学生に強く期待されていることを強調した上で、夢やビジョンを持つことの重要性について繰り返し語られました。

「青年の気持ちをもって歩むと、体の細胞が喜び始め、若返るのです。体も健康になり、幸せな家庭をつくれます。ビジョンを忘れてはいけません。ビジョンなき民は滅びるようになっています。ビジョンなき国家は滅びます。天の父母様のもとに一つの世界、一つの祝福家庭となる。真の家庭運動を推進し、良き父母となり、良き家庭をつくる。そして若き青年たちを育てていく。そのようなVISION2020を必ず成就することができる食口の皆さんとなって下さい」(10月5日、札幌はなぞの総合研修センター)

「たとえ70歳でも夢(明確なビジョン)と、それを果

たそうとする情熱を持つ者は青年です。真のお父様は生涯、青年として歩まれ、真のお母様もお父様のように歩んでおられます。私たちは子女として、真のお母様と一つになり、VISION2020を果たして差し上げましょう」(9月25日、北東京教区竹ノ塚教会)

祝福広報大使に任命

また、宋総会長は食口たちに対し、「真の愛を証す広報大使になりなさい」と何度も訴えられました。

「真の父母様の最も偉大な業績は“祝福”であり、世界の国家指導者の前でも真っ先に話されたのは“祝福”です。“イスラエル(勝利者)”と祝福されたヤコブより、もっと大きな祝福を受けたのが私たちです。日本を復興してほしいという願いで祝福された私たちであることを忘れないで下さい。CIG復興団だけが伝道するのではなく、皆が喜んで、幸せを感じながら伝道して下さい。皆さんを“祝福広報大使”に任命します!」(9月20日、秋田教会)

青森教区弘前教会では、「祝福によって天の血統を相続することで、世界を変えていける。日本と世界を正しく導き、偉大な母の国に変えられるのは祝福によってのみ可能です」と語り、「祝福広報大使となり、偉大な日本建設の主人になろう」とのメッセージを色紙にしたためられました。

祝福が個人的次元ではなく、国家的な次元につながることを意識させる力強いメッセージに、現地の食口は「祝



①宮崎教区で挙行された「2014天地人真の父母天宙祝福式」(8月3日)
②京都教区京都教会に集まった食口たち(11月27日)
③子供たちから歓迎を受ける宋総会長(8月4日、北福岡教区八幡教会)
④歌を披露する宋総会長ご夫妻(札幌はなぞの総合研修センター、10月4日)

福の重要性を何度も語られ、改めて祝福家庭であることの自覚と自尊心を奮い立たせて下さいました。自らも祝福結婚の大使として、伝道を勝利していきたいと、決意させていただく時間となりました」(弘前教会、Nさん)と感想を述べています。

選民ユダヤ民族のごとく

宋総会長は、比較的小さな規模の教会を訪問した際には、「私たちは人数が問題ではありません。ユダヤ人が伝統を守ることによって世界を主導する立場であるように、私たちが統一教会のブランドである祝福を中心として、伝統を守りながら頑張っていけば、第4イスラエルとして世界を主導する時が来ることを信じて頑張ってください」(岩手教区花巻教会)と激励しながら、「訓読会」や「礼拝」などの伝統を子々孫々まで死守していくことの重要性を訴えられました。

「ユダヤ人は3000年を超える受難の歴史においても、選民としての伝統と信仰を命より尊く思い守ってきました。今、全世界に1500万人程度しかいないにもかかわらず、世界を動かしています。私たちは真の父母様の真の愛、真の生命、真の血統を相続し、また真の父母様の投入と勝利で天一国の真の子女となりました。頂いたみ言と伝統を生命視し、それを守って継承・発展させれば、必ず世界の中心となることでしょう」(8月24日、群馬教区高



⑤ひと家庭ずつと記念撮影をする宋総会長(8月30日、東東京教区江戸川教会)
⑥食口たちの話を耳を傾ける宋総会長(8月3日、福岡教区福岡西教会)

崎教会)

「二世圏が神様と共にあれば、この国を引っ張っていくリーダーになっていくでしょう。子女たちの中から首相が出てくるし、各界各層の最高の人が出てきます。イスラエルがそうです。ユダヤ人が全世界で1500万人にしかならないのに、ユダヤ人は米国を動かし全世界を動かしています。政治経済などあらゆる分野で影響力を持っています。第4イスラエルとして選ばれた私たちの二世たちが、天の祝福の中で国と世界を引っ張って行く指導者となることは明らかです。二世達を正しくしっかりと教育することに総力を傾けましょう」(8月22日、東埼玉教区浦和教会)

神氏族的メシヤの使命完遂

宋総会長は、天の血統を受けた祝福家庭はユダヤ人以上であると力説した上で、日本の使命の大きさを訴えながら、神氏族的メシヤの使命勝利を呼びかけられました。

「ユダヤ民族、清教徒より偉大な絶対信仰を持つのが日本の統一食口であり、天の祝福が永遠に臨むことができる環太平洋時代の中心国家・日本を生かすため、『神氏族的メシヤ』を勝利しましょう」(12月8日、東埼玉教区越谷教会)

「皆さんは第4イスラエルです。天地人真の父母様から祝福を受けた私たちです。この瞬間瞬間を、『70億人類の中で、私より福を受けている者がどこにいるのか!』と毎日思って生活する皆さんであることを願います。ビジョンを抱き、夢を持って一つになれば成せないことはありません」(12月5日、北愛知教区名進教会)

「皆さんは、天が天一国の中心に立てたい民族であり、母の国・日本は世界の中心となるべきです。真の父母様が全ての蕩滅を背負って私たちを天一国まで導いて下さいました。真の父母様の犠牲と愛を忘れることなく、七大運営指標をもってVISION2020勝利に向かって前進し、神氏族的メシヤを必ず勝利しましょう」(12月5日、北愛知教区東濃教会)



①祝福式後の祝賀午餐会（西神奈川教区）②西静岡教区の祝福式 ③新たな祝福家庭の誕生を祝う合唱（南長野教区）④主礼のメッセージを述べる徳野英治会長
⑤南長野教区の祝福式 ⑥多摩東京教区の祝福式 ⑦茨城教区の祝福式

李教区長ご夫妻の億万歳四唱で祝福式は終了しました。
祝福式に参加したある婦人は「何故だか分からないけれど、涙が流れて仕方ありませんでした」と証しました。

【多摩東京教区】 孫娘から祖母へのプレゼント

12月13日、主礼に徳野英治・日本統一教会会長ご夫妻をお迎えし、多摩東京教区で初めてとなる祝福式が八王子市内で開催され、既成祝福20組と独身祝福62組、合わせて82組の祝福家庭が誕生しました。

徳野会長は「祝福式により皆様は天国直行のパスポートを手に入れましたが、天国滞在のビザは皆様の生活にかかっています。円満な家庭を築くには、喜びや悲しみ、悩みを夫婦で分かち合うこと、相手に要求するのではなく、自分から変わることが大切です」と、家庭円満の秘訣を語りました。

祝賀会では、既成祝福、独身祝福の代表家庭が感想を述べました。その中で、92歳の祖母を参加させた孫娘は「祖母は27歳のとき夫を戦争で亡くして以来、女手一つで子供を育て上げ、そして生まれたのがこの私です。今日は私の誕生日ですが、祖母に祝福をプレゼントしたくて山梨から連れてきました。私にとっても最高の思い出になる誕生日となりました」と語りましたが、隣で手を合わせて感謝している祖母の姿が、よりいっそう他の参加者の感動を引き起こしました。

【茨城教区】 神様を中心とした永遠の夫婦に

12月14日、茨城教区土浦教会に鄭泰奭^{チョンテソク}教区長ご夫妻をお迎えし、祝福式が挙行されました。既成祝福10組と独身祝福68組、合わせて78組が参加し、来年11月13日に開催予定の「茨城教区1200組祝福」に向けたステップとなりました。

主礼の鄭教区長は、「『祝福』を受けることで、人類始祖アダムとエバの堕落以来、血統的に受け継がれてきた原罪を清算し、皆様は悪（サタン）の血統から善（神）の血統に転換されました。神様を中心とした永遠の夫婦の出発がなされたのです」と語り、祝福の意義と価値を強調しました。

今回の祝福式では、体が不自由で参加できない候補者の家を牧会者が訪問して祝福を授けたケースや、式当日に足をくじいて歩けなくなった婦人が夫に背負われて会場に到着すると、何もなかったかのように痛みが消えたという証しもありました。

全国で祝福式、喜びと感謝の輪が広がる 西神奈川 / 南長野 / 西静岡 / 多摩東京 / 茨城

12月に入っても全国各地で祝福式が開催され、喜びと感謝の輪がさらに拡大しています。今回は、西神奈川、南長野、西静岡、多摩東京、茨城の各教区で行われた祝福式の様子や参加者の感想などを紹介します。

【西神奈川教区】 夫婦の永遠の愛の出発点

澄んだ空気と青空の美しい12月7日、神奈川県小田原市内のホテルを会場に、全柱奉^{チョンジュボン}・第6地区長ご夫妻をお迎えし、西神奈川教区の「2015 天地人真の父母天宙既成祝福式」（以下、祝福式）が開催されました。既成家庭94組と独身祝福18組、合わせて112組の祝福家庭が誕生しました。

祝賀午餐会で主礼の全地区長は、「統一教会の祝福式は、地上界だけではなく、霊界でも夫婦が永遠に一つになって暮らす為の出発点です。また、これまでの罪が赦され綺麗に洗われて、罪のない自分に生まれ変わる式です」と祝辞を述べました。

会食が始まると、和やかな雰囲気の中、喜びと感謝で会話が弾んでいました。3組のグループの歌と踊りが会場を盛り上げた後、主礼が参加者に記念品を贈呈。最後は、

億万歳四唱で式典は終了しました。
祝福式に参加したある男性は「これから心を新たにして、かわいい女房を大事にするから、仲良く一緒に行こうね」と妻にラブコール。別の男性は「今日は気分がすっきりして、自分の中で良い記念日になりました」と述べ、参加したカップルにとって永遠に忘れられない一日となりました。

【南長野教区】 祝福は天国行きのチケット

12月7日、趙鎮燮^{チョウジンソク}・南長野教区長ご夫妻の主礼のもと、南長野教区では今年2回目となる祝福式が松本教会で開催されました。既成家庭5組と独身家庭31組、計36組が参列。各教会で祝福を受けた家庭と6月の祝福式を合わせると、107組になりました。

主礼の趙教区長が「皆さんは祝福を通して天国行きのチケットをもらいましたので、それを落とさないように、夫婦仲良くしていきましょう」と、ユーモアたっぷりに語りかけると、参加者は明るい表情で頷いていました。

祝福式後の午餐会では、中高生や壮年の合唱、ソプラノ歌手による独唱などが祝福式に花を添えました。

両親が祝福式に参加した婦人は「今日は我が家の家系

において記念すべき一日でした。神様と先祖の導きがあれば迎えられなかったと、感謝の気持ちでいっぱいです。礼拝堂は温かい愛に溢れ、天国とはこんな所なのかと感じました」と述べるなど、恩恵深い式典となりました。

【西静岡教区】 神様が失った子女と出会う喜びの日

12月7日、李範奭^{イボムソク}・西静岡教区長ご夫妻を主礼として、浜松市内のホテルで西静岡教区の祝福式が行われ、既成祝福7組、独身祝福63組、計70組が参列しました。7月の33組と合わせると、100組を超える祝福家庭が誕生しました。

午前11時に始まった式典では、祝福の紹介映像を視聴した後、「聖酒式」を行いました。

祝福式では、李教区長が主礼の辞で、「今日は、神様が失ってしまった子女に出会う喜びの日です。今後、天国に住むには3つの事柄を守らなければなりません。何よりも、生涯にわたって貞節を守ること、心情躁鬱をしないこと、お金の使い方に気を付けることが大切です」と語りました。

その後、聖水式、聖婚問答、主礼の祝祷を受け、聖婚宣言がなされると、会場全体から惜しみない拍手が送られ、



①高松教会の日曜礼拝
②毎月行っている祝福式
③日曜礼拝で説教をする趙成旭教区長
④原理大復興会で講演する大西秀宣伝道教育部長
⑤氏族も招待しやすい「命日感謝祭」



今は信仰の基本に立ち返る時

香川教区、「訓読、礼拝、11条献金」教育で復興

香川教区の礼拝参加実数は、2013年度は平均790人だったのが、今年11月は1070人と大幅に増加しました。その背景には、基元節を越えて赴任された趙成旭教区長による「訓読・礼拝・11条献金を守れば天運と共に神様が役事する! 3年間やり続ければ必ず成される!」との指導があります。その結果として、地元食口の意識が向上し、教区の雰囲気全体が変わりました。香川教区の取り組みを以下に紹介します。

まず、趙教区長のゆるぎない指導の下、「10分の1を捧げる生活」を目指し、1日の10分の1として「訓読」、1週間の10分の1として「礼拝」、1か月の10分の1として「11条献金」を守るように、教会スタッフや責任者を通して、食口一人一人に意識が行き渡るように徹底的に教育を行っています。

特に、礼拝参加を確実にするため、日曜礼拝や月曜礼拝に参加できなかった食口のために、礼拝を録画したDVDを常に準備し、ビデオルームや講義室で一人でも視聴できるように対応。その結果、食口一人一人が積極的に礼拝のみ言を受けようという姿勢が強まり、

1週間の歩みの霊的糧となっています。

それと並行し、食口の教育体制も充実させ、毎週の礼拝とともに毎月、壮年、婦人、青年の勉強会を行っています。

婦人勉強会は毎回約70人が参加。昨年9月から12回シリーズで始まり、統一原理について学んできました。今年10月からは新たに「真の父母様の生涯路程」を12回シリーズでスタートしています。

壮年勉強会には毎回約40人が参加し、婦人勉強会と基本的に同じですが、政治や国際情勢などの内容を盛り込んだ講義を行っています。壮年・婦人勉強会ともに竹内清治先生が担当しています。

また、青年の勉強会には毎回約30人が参加し、統一原理の講義や信仰講座のほか、祝福講座を「1DAY」として開催しています。

伝道においては、誰でもいつでも伝道できる、「単純、明確、継続」というコンセプトで、氏族を祝福に導く1つのラインができ上がってきています。

氏族を招待しやすい企画として「命日感謝特別礼拝」を行い、趙教区長が主礼を担当。主礼のみ言、先祖

への手紙、祈願書奉納、書写奉納をしながら、先祖を思い、心磨きをしていきます。

また、「原理復興特別礼拝」は外部の会場で毎月実施し、20回を越えるようになりました。第一部は趙教区長を中心に約40人の食口が参加して集会を行い、霊的な雰囲気を整えます。その上で、第二部はゲストを30人くらいに制限し、大西秀宣教区伝道教育部長による講演とスタッフによる和動が行われます。

この礼拝も定着し、今年11月からは地域原理復興特別礼拝も始めるようになり、月2回行われるようになりました。綿密な計画のもと、着々と規模を拡大しています。

そして、最終的には真の家庭、真の夫婦の絆を確かめ、永遠の愛を誓う、教会での祝福式に導く流れを確立しています。

教会での祝福式は礼拝の形式で行うため、大勢の食口がともに祝う式典となり、盛大な雰囲気が作り出されます。参加する食口にとっても、「次は私が氏族を導きたい」と自然に思うことができ、良い影響を受けるとい効果も。教会での祝福式は毎月行われており、既

成祝福や独身祝福が確実に増えてきています。

また、祝福家庭が聖和した際、聖和式（教会葬）を行うことが定着してきました。聖和式には氏族が集まるので、40日、100日、1年後には、またその氏族を集めて追慕礼拝を自然に行うことができ、氏族を祝福へと導く良いきっかけとなっています。

教会においては、高齢の婦人は朝から訓読祈禱会をしながら、教会に多くの兄弟姉妹が集い、1日のみ旨を元気に歩み、良い出会いがあるように祈っています。また、長老たちも週1回、訓読祈禱会を行いながら、霊的雰囲気を盛り上げています。

このような取り組みを通して、何よりも食口自らが進んで教会活動に参加し、伝道を行おうとする雰囲気が作られるという大きな成果を生み出しています。訓読、礼拝、11条献金という基本的な信仰生活を守ることによって霊的な土台ができ、霊界の導きを感じられる証しも次々と出てきています。

また、来年は日本の8大聖地の1つである屋島の聖地決定50周年を迎えることから、さらに教区全体の意識が向上。真のお母様を支え、神氏族的メシヤと世界摂理貢献を目指していこうという食口の思いが一つになってきています。

香川教区は、今後も神霊と真理にあふれた雰囲気づくりと、幸せな家庭、健康な教会を目指し、食口一人一人が喜んで集う教会づくりに邁進していく考えです。



2014年度地区代表成和学生部長研修会

日時：天一年2年 天曆年10月19日～20日（陽曆：2014年12月10日～11日）主催：青年学生局 成和学生部 場所：一心特別教育院



①研修会に参加した本部スタッフと地区代表者
②閉会式でメッセージを語る田中富広青年学生局長
③グループに分かれて担当者が交流を深める時間をもった



外に向かって真の父母様を証ししよう

「地区代表成和学生部長研修会」を開催

青年学生局 成和学生部長 伊藤安昭

12月10日～11日、千葉・浦安の一心特別教育院で、「2014年度地区代表成和学生部長研修会」が行われました。研修会は、①本部成和学生部と地区成和学生部長との協力体制の強化、②地区代表成和学生部長同士の交流や取り組みの共有、③2014年度上半期の総括と2015年度成和学生部方針の準備——の3つの目的をもって実施。全国から地区代表として、中高生の二世教育に責任を持つ成和学生部長20人が集まりました。成和学生部は、「忠孝の伝統の旗手となろう！成和学生」という年間スローガンを掲げ、今年5月に全国成和学生教育担当者研修会を開催。そこで2014年度成和学生部3大方針と8大戦略を発表し、中高生の二世教育に取り組んできました。

開会式では、田中富広青年学生局長が挨拶し、「現在の中高生の二世は、2020年には青年となります。この世代は日本の二世の世代の中で最も人数が多いのです」と指摘。その上で、「成和学生部のミッションは成和学生の成和青年への『連結』です。中高生の二世をしっかり成和青年にしていくため、これからはより外に向かって真の父母様を証していく成和学生となっていかなければなりません」と強調されました。

研修会1日目は、全国の各教区・教会の担当者が作成した上半期の評価をもとに、2014年度上半期の反省を行いました。

その後、今年から成和学生部で推進している「成和手帳」の活用講座がありました。成和手帳は、スケジュールを記入したりメモをする役割だけでなく、毎日の心情日誌の記入など自身の信仰生活を記録しながら、「信仰の成長」に役立つツールとして、全国的に中高生の二世教育の現場で普及しつつあります。

そのほか、リーダーシップ向上のための教育プログラムとして全国で取り組んでいる Jr.STF プログラムの今後についても検討がなされました。

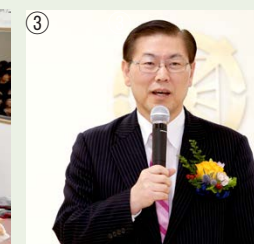
研修会2日目は、2015年度成和学生部方針と中和文化祭の取り組みが検討されました。2014年度を反省しながら、来年度にはどのような方針を立てていくべきなのか、それぞれの地区代表から活発な意見が出されました。

また、成和学生部主催で毎年1回、原理講義やスピーチ、エンターテイメントなどの発表会を行っている中和文化祭についても意見交換。来年度からは、二世圏だけではなく、氏族や学校の友人なども招待して真の父母様を証していく、より対外的なものへと発展させる方向で検討を行いました。

閉会式では、田中富広青年学生局長が「真の父母様の願う二世圏となっていくためには、まず教育担当者自身がしっかりと真の父母様を見つめ、その相對圏に立って教育を行っていく必要があります」と強調。すべての二世を真の父母様に連結していく教育者となるよう参加者を激励されました。



①新潟教区で行われた青年学生大会
②よさこいソーランで盛り上げた若者たち
③メッセージを語る徳野英治会長
④家族で民謡を披露



2020年「二世・青年1万名大会」に向けてキックオフ

新潟教区が「第2回 New Vision 青年学生大会」開催

9月に千葉・幕張で行われた青年学生1万人大会「グローバル・ユース・フェスティバル (GYF) 2014」の勝利圏を相続し、新潟の祝福二世・青年学生を復興させることを目的に12月6日、新潟市の新潟教会で「第2回 New Vision 青年学生大会」が開催されました。大会には新潟教区の青年学生をはじめ、地元大学の原理研究会 (CARP) のメンバーなど700人を超える若者が集い、2020年に予定している「新潟教区二世・青年1万名大会」のキックオフイベントにもなりました。

午前11時、教会3階をフルに活用して「わくわくブース」がオープン。ホールでは、CARPや海外宣教、青年部の活動のパネルが展示され、各部屋にはゲームコーナーや二世の作品展示などがあり、軽食コーナーにはバキスタン・日本の国際カップルが手作りしたバキスタンカレーなどを準備。会場は人で溢れかえりました。

大会の第1部は、カラフルなスポットライトで彩られた教会2階の礼拝堂で午後1時に開幕。楽器による聖歌演奏、家族で披露した民謡、上越教会の中高生と青年による「ヨッチョレ (よさこいソーラン)」、エネルギッシュな中高生姉妹によるダンスに続き、最後は中高生バンドがサクスのソロ演奏を含め3曲を披露しました。

第2部は、天父報恩鼓の演舞からスタート。代表報告祈祷の後、映像「青年よ、大志を抱け！～躍動する日本新青年運動」

が上映され、参加者たちは青年に対する真のお母様の願いを改めて実感しました。

大会実行委員長の申大 變新潟教区長と南晃 卓第4地区長の挨拶の後、新潟教区青年部の活動報告や天一国青年宣教師として東南アジアで1年間活動してきた姉妹の証し、10月に行われた「トップガン修練会」の参加者の報告などが行われました。

続いて、徳野英治・日本統一教会会長が基調講演を行い、世界50カ国以上を訪問した体験談を交えながら、「井の中の蛙になってはいけません。まずは、専門分野を持つこと、語学に力を入れること、勉強すること—の3つが重要です」と指摘。その上で、「夢とビジョンを抱いて海外に出て行き、世界的視野を持ったグローバルリーダーになって下さい」と集まった若者たちを激励しました。

大会に参加したある女子高校生は「徳野会長自身の海外での豊富な体験談や、国際的に活躍している姉妹の話などをお聞きして、とても刺激になり、興味がわきました。大学に進学したら、短期留学や研究活動などさまざまなことに挑戦し、広く国際的な視野を持ったグローバルな人材になれるよう努力していきたい」と感想を述べるなど、2020年開催予定の「新潟教区二世・青年1万名大会」に向かって、希望溢れる船出となりました。



インタビューに答える笹田俊明・1800 家庭会長



二世祝福に関する書籍

「父母が二世祝福のために愛と祈りを」

笹田・1800 家庭会長に二世祝福の取組について聞く

1800 家庭会長の笹田俊明さんは、二世祝福推進委員会の主要メンバーとして、積極的に取り組んでこられました。親の姿勢や、今後のプランなどについて聞きました。

——笹田会長が、ボランティアで二世祝福推進活動をしていこうと決意されたきっかけは何ですか？

私が4年半前に1800家庭会の会長に就任した時、首都圏の心あるメンバーと、どのような活動をしたらいいのか、話し合いました。それで活動要望アンケートを全国の1800家庭会の皆様にお送りしたところ、「親の願いは子女が祝福を受けてくれることであるので、二世祝福を推進する活動をしてほしい」という要望が強いと理解しました。

二世祝福推進は私達祝福家庭の大きな願いであり、これは運命共同体であることを認識して互いに深く信頼協力しあってこそなされるものです。どの社会でも国でも本来経験者から後輩へと伝授して、積極的に婚活を推進していくことで、結婚制度を維持し安定した人口の成長と社会の発展をなしてきたと思います。しかし、急速な日本社会の晩婚化・非婚化・少子高齢化の影響を受けている私たちです。また私たちが、他の宗教団体や社会と違

う点は、祝福の血統を極めて重要視するという点です。この血統を連綿と子孫へ伝授していくことを、誓った私たち一世です。

しかし、30~40年以上の月日の中でいろんな苦難・艱難辛苦を経験するなかで、この最も重要な二世の祝福結婚に対する真剣さが低下し、諦めかけている父母さえ見られます。イスラエル民族もカナンに入って、カナンに定着しかけていくとき、「アイデンティティの危機 (Identity Crisis)」に陥っていったことが聖書に記されています。選民が選民意識を喪失しかけ、二世・三世への関心と教育を怠ることは滅びを意味します。このような危機意識を共有していきますと、真剣にお互い二世祝福を推進していこうという気持ちになります。

——大きく二世祝福が進んでいない原因をどう見ますか？

二世のマッチング祝福は基本的に父母の責任となっていますが、それぞれの家庭の子女への関心度や家庭教育状況が異なるゆえに、簡単になしえませんが、一人の子女をマッチング・祝福へ導くことは、何年も投入し忍耐して初めてなしえるものです。その上に、父母達をサポート

し指導すべき現場の指導者をはじめ、家庭教育部長や家庭部長も、一世青年や既成家庭の祝福結婚の対応に追われ、十分な取り組みがなされていないように思えます。

また父母マッチング・祝福は、日本全国ばかりか国際祝福をも含めると、真の横的連帯を構築していかないと先が進みません。日本の私たちが母の国の使命を感じて、日本から全世界へ、二世祝福運動を推進していく気概が必要です。

私は幸いアフリカ宣教を含めて海外生活を20年経験し、英語で海外の信徒ともコミュニケーションを取ることができます。現在日本の本部では父母集会・家庭集会が年に2度、一心特別教育院（千葉・浦安）で開催されていますが、北は北海道、南は沖縄から参加される状況です。しかし集まる人数も十分ではありませんし、そこから父母・家庭交流が始まり約婚が決定することも簡単ではありません。また地方での父母集会・家庭集会も始まっていますが、いまだテスト段階です。私たち教会の縦的構造と祝福家庭間の真の横的連帯意識がまだうまく合っていない。現場の責任者がこの危機意識を十分に把握していないことや、また経験が不足していることも考えられます。

——親の側に課題が大きいと思いますが、何かアドバイスを。

「父母が自分たちの二世祝福に責任を持つ」ことが次第に認識されつつありますが、私たち一世に与えられた責任、危機意識が十分に共有されることが大切です。荒野時代はマナや火の柱、雲の柱が天から導いてくれました。私たちはカナン定着時代に入っています。神氏族的メシヤ時代は、このカナン人をイスラエル化するほどの主体性・積極性が求められます。

また、支援やアドバイスを必要とする父母に手を差し伸べ、心を通わせて二世マッチング・祝福に導く、愛と忍耐のアドバイスをしていく方の養成が必要です。現場の責任者の中に二世祝福の現状を把握し、かつ懸命に指導されている方も徐々に出てきていますが、これは父

母の責任です。またお互い先立って二世をマッチング・祝福に導いた方々が、アドバイザーとしてスキルを向上させて支援していく体制が必要ではないでしょうか。この認定された専門アドバイザーが、各教区に2~3人（全国で200~300人）あって、365日24時間、常に二世・青年祝福に心を注いでいくような体制を築くことが大切と感じます。

——笹田家は、お子さんの祝福のためにどのように準備をされましたか？

私の子女たち（2男2女）はアフリカ宣教時代にザンビア共和国で生まれました。当時欧米各国の宣教師たちもベビーブームを迎え、互いに保育園を準備管理しあって二世を守りあっていました。また子女が小学生以下の時にアフリカから帰国し、故郷の福井に帰りましたが、幸い近かった教会本部が常に二世祝福が当然な道であるという教育を小中高校生にしてくれ、また子女たちも教会学校に積極的に通っていました。このように、高校までの教会学校と、高校を卒業した後、アメリカやヨーロッパでのSTFまたはOLT (Oceania Leadership Team、オーストラリアの青年教育プログラム)などに3人の子女（長男・長女・次男）が参加し、また次女も京都での学生時代に学生寮に宿泊しながらカーブ活動に参加できたことです。

鉄は熱いうちに打て!と言われます。STFに入った3人はSTFのあと大学に入学したわけですから、卒業もそれぞれ2~3年遅れましたが、ハングリー精神で社会に適応してくれています。STFをともにした中からお互いの伴侶が決定した長男カップルは、伴侶が中高生から数年の祈りを積み重ねて導かれたカップルです。もちろん私たち親子も祈り合いました。長男カップルが父母マッチングの手本のような展開となって、我が家は父母マッチングで国際祝福へと導かれ、妹弟たちも兄夫婦のようになりたいという希望を強くもってくれました。また妻は常に子女と心情的なコミュニケーションを図ってくれています。

——今後の取組についての抱負をお聞かせください。

二世青年祝福が私たちの希望です。専門アドバイザーの育成と共に、公的法人を作って、国内外の祝福結婚を日本社会に認知させ、ブランド化させていくことができたらと思って努力していきたいと考えております。また国際祝福を推進させていきたいと思っています。



① 祝福式に参加したカップルとロペスさん夫妻 (前列左)
 ② 真のお母様から直接表彰されたフランシス・ロペスさん (左端。10月26日、天正宮博物館で)
 ③ 430 家庭を勝利したロペスさん夫妻



「人々をひたすら愛し、投入し、教育に専念する日々」

フィリピンで 430 家庭伝道勝利したロペス氏の証し

天曆閏月 9 月 3 日 (陽曆 10.26)、韓国・清心平和ワールドセンターで「Vision2020 勝利! 神氏族的メシヤ使命完遂のための世界連合礼拝」が、約 2 万人が参加して盛大に挙行されました。ここで、430 家庭を祝福に導いたタイのドクター・レック家庭とフィリピンのフランシス・ロペス家庭の模範的な伝道活動が称賛されましたが、今回は韓国の「トゥルー・ピース・マガジン」に掲載されたロペス家庭の証しを以下に紹介します。

2010 年と 2011 年、全祝福家庭に「神氏族的メシヤの使命を完遂せよ」という真の父母様のご指示があった後、龍鄭植アジア大陸会長は全ての祝福家庭に神氏族的メシヤの活動を行うよう勧めました。2011 年、夫と私はこの使命を完遂すると決意しました。当時、私は週末毎に、マニラ市郊外のアンティポロ市で教会活動と共に小規模のビジネスをし、夫は国際平和リーダーシップ大学 (International Peace

Leadership College) で講義をしていました。私はビジネスを後回しにして、神氏族的メシヤの使命に集中。2013 年にケソン市のアラネタコロセウムで開催された「超宗教平和祝福フェスティバル」に参加者を動員するための活動を行いました。

私たち夫婦は、アンティポロ市で二人の娘と暮らしています。私たち以外にも祝福家庭がアンティポロ市で活動していることを知り、私たちは他のメンバーが行きたがらない地域に行くことにしました。隣接するマリキナ市から来た 2 家庭と三位基台を組みました。最初のチームが来た時、私たち 3 家庭は既に活動をしていました。私たちも、そのチームに加わり活動を始めましたが、地方公務員とバラングイ (地方自治で、地区を意味するフィリピン語) の責任者らが好意を寄せるまでは、何の支援も受けられませんでした。

毎朝、私たち夫婦は、家で訓読会と祈祷の精誠を捧げ、毎日 2 時間ずつ寄付金集めをして、氏族が住んでいる地域に通う交通費を賄いました。他の神氏族

的メシヤは活動地域に行くことができないため、時々私たちが行って活動しながら、交通費を支援してもらいました。夫は平日、大学で教えているため、一人で活動することがほとんどでした。多くの困難を経験しましたが、他の神氏族的メシヤが手助けして下さいました。週末、夫は私たちと活動を共にし、原理講義をしました。

実践条件

私たち夫婦が立てた条件は、毎日 2、3 時間の伝道活動と、マニラ東の郊外に位置するアンティポロ市の「イナレスセンター」、ケソン市の「スマートアラネタスタジアム」で開催された「超宗教平和祝福式」に参加した家庭を訪問することでした。祝福式の後、私たちは、バラングイのホールまたは祝福式に参加した夫婦の家で蕩減棒儀式を行いました。当時は私たちのセンターがなかったため、時々祝福家庭の家で寝泊りをしました。三日行事をするにはあまりにも汚い

家もあり、彼らを祝福家庭として神様の前により相応しい立場に立てるため、行事をする夫婦の家を綺麗に聖別する方法を模索したりもしました。

毎日、神氏族的メシヤとして活動地域に通うことは簡単ではありませんが、活動を継続しました。マリキナ市の活動地域では洪水が頻繁に起こるため、いつも私たちのチームは、そこに住む祝福家庭の家に行き手伝いました。私たちの決意は揺らぐず、龍鄭植大陸会長とジュリアス・マリクデム協会長からの激励を受けながら頑張りました。動員期間は、協会から財政面の支援を受け、私たちの地域の祝福家庭であるステファン・コンスタンス・ギャップ家庭からも援助を受けました。この家庭は私たちにとって他の面においても力の源でした。夫はグループで講義をしました。夫がブロック毎に訪ねて講義をし、私は補佐役となりました。遠隔講義をする時は、私たちの娘も手伝ってくれました。

時には、何故三日行事を行わなければならないのか、理解できない夫婦がいましたが、私たちの祈祷と分かりやすい説明、そして彼らに対する精誠の甲斐があって、無事に三日行事を行えたのかもしれませんが。ある時は家の掃除を手伝いながら親しくしたりもしました。お陰で上記のような家庭も私たちの導きを信じ付



いて来てくれました。ある夫婦は祝福式に参席した後、蕩滅棒行事と40日聖別期間を経た家庭を見て復興し、三日行事を行ったりもしました。40日聖別期間に、いくつもの家庭が精誠を立てる最中に邪魔が入り、幾度も聖別期間が延長される場合もありました。私たちはずっと祝福式以降の状況を把握し、三日行事を終え、教会活動に積極的に参加する家庭に支援をお願いしたりしました。実際に新規祝福家庭のうち何家庭かが三日行事の場所として自分の家を提供してくれました。

私たちはマリキナ市のいくつもの地域で定期的に訓読会を開き、誕生日など家族のイベントにも参加しました。また各家庭を訪問し、その家庭の為に祈禱を捧げました。そして、彼らに訓読会を勧め、『原理講論』を土台として作った1時間用の講義冊子のコピーを渡し、伝統についても教えました。「家庭盟誓」を配る活動も続けています。「家庭盟誓」をタガログ語に翻訳し、老人も理解できるよう心がけました。40日聖別期間は、私たちの地域で最も献身的に活動できる祝福家庭で構成された訪問チームを組み、祈禱の精誠をたてました。ほとんどのご主人が会社に勤め家を出ているので、まずはその奥さんたちを中心に精誠をたてました。

ブロック別に訓読会の日程を作り、毎週、伝道対象者に真の父母様のみ言や聖書をコピーして渡し、勉強できるようにしました。毎朝、子供たちが登校するため、決まった時間に訓読会ができず、ほとんどの家庭は夜、寝床につく前に訓読会を行います。近所からの迫害で、否定的な考えを持つようになった家庭もあり、私たち夫婦は全てを肯定的に受け止め、彼らの心を解放してあげようと努めています。また愛する人たちのお墓参りをする日にちを決め、霊界にいる彼らの親戚が役事をしてくれるように祈りました。一度、ローランド・バスイル・ジュニア前協会長のお墓の前で、私たちの使命に役事して下さるようにと祈ったりもしました。

私たちは教会本部で連合礼拝を行ったり、重要な集まりがあるときには必ず祝福家庭が参加できるよう最善を尽くしましたが、交通費が高いため、通常は地域のバランガイホールで日曜礼拝を行いました。三日行事を完了した夫婦が増えるたびに、その地域での活動も多くなり、さらに多くの人々を管理しなければならなくなりました。多大な責任を感じながらも、私たちの活動を積極的に支援してくれるバランガイの責任者がいるということは大きな祝福でした。彼らのうち何人かは、私たち夫婦に月曜日の国旗掲揚式や、他のバラン



①地元教会で行った祝福式で祝祷を受ける参加カップル
②伝道対象者に講義を行うフランス・ロベスさん
③聖酒式を行う若いカップル
④ロベスさんの担当地域で活動する学生メンバー（2012年2月）
⑤伝道対象者の家庭を訪問するアナリザ・ロベスさん（中央）
⑥娘2人と伝道活動をするアナリザ・ロベスさん（右から3人目。2012年11月）



ガイのイベントでの祈禱を頼むこともありました。

市民指導者の支援の重要性

私たちは神民族的メシヤ活動地域のバランガイ責任者、および若い指導者と友好的な関係を結びました。私たちの氏族の多くの夫婦が、真の父母様の心情を深く理解できないにもかかわらず、短い期間の教育だけで真の父母様をメシヤとして受け入れました。それは持続的な教育のお陰でした。祝福家庭には更なる原理教育が必要で、彼らに対する教育をずっと続けています。祈禱と訓読の精誠をたてることも止めませんでした。新しく祝福を受けた家庭には、伝道活動についての責任と権限を与えました。彼らが心情的に真の父母様に侍ることができるよう世話をし、今後、神民族的メシヤとして成長できるよう導くことが、私たちの家庭の重要な責任です。

今後、マリキナ市の神民族的メシヤは、最近、ホームグループ修練会を終えた新しい家庭を教育しなければなりません。2013年のアラネタコロセウムと2014年のアンティポロ市のイナレスセンターで行われた祝福式に参加した全ての家庭を、各地域においてチームとして構成する予定です。私たちは訪問と訓読会の計画を立てています。9月にはマリキナ市の中

心地に神民族的メシヤセンターが新しくオープンしました。このセンターで、新規の祝福家庭を対象に日曜礼拝が行われ始め、少なくとも月に一度は本部教会での礼拝に参加します。

私たちの家庭生活は恵まれています。小さな家に住んでいますが、神様が祝福して下さい、私たちを支えてくれるギャップ家庭などの神民族的メシヤのお陰で、多くの家庭を教育し講義ができる、大きなセンターをオープンすることができました。他の神民族的メシヤも色々私たちを支えようと努力して下さいます。現在の目標は、私たちの地域の神民族的メシヤが、430家庭の伝道目標を達成できるようサポートしながら、私たちが伝道した430家庭への教育をすすめることです。

430家庭祝福の目標を達成するため、私たちには次のようなモットーがあります。

「人々に会えばひたすら愛し、希望を与え、抱擁し、投入し、原理を教育することだけを考える。真の父母様が教えて下さった通りに、私たちの人格と個性で他の人々を感動させ、変えていかなければならない。私たちが常に真の愛を實踐できる心情の革命が必要である」